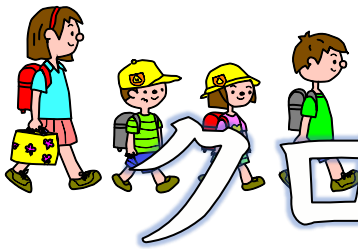


生活指導だより クローバー

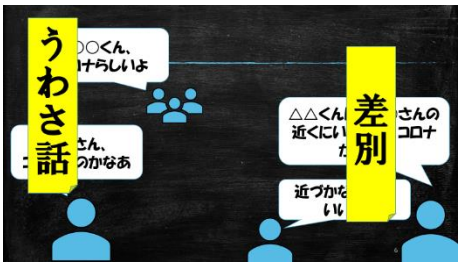
府中市立府中第五小学校
校長　布宮　英明
五小　生活指導部
令和３年６月１０日

だれがかかってもおかしくない　だからこそ今

日頃から本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。日々、コロナ感染予防の指導をしつつ、できるだけ、通常の教育活動が行えるよう職員一同、心がけています。

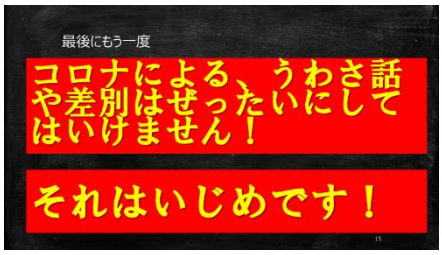
幸いにも、五小では児童が感染したという報告はありません。児童の感染者がいない今、指導しておかなければならないと感じていることがあります。それはコロナいじめ防止の指導です

府中市でも感染者がいます。小学生でもかからない保証はありません。身近な人がコロナにかかってしまったときのことを、指導をしておかなければなりません。



全クラスで、コロナいじめ防止の指導をしました。まずは現状の把握です。もう子ども達も知っていますが、あらためて、府中市内でも感染者が増えていることを伝えました。

次に**長期にわたって欠席している友達**がいたとき、どのようなことを考えるかを聞きました。欠席の理由は様々ですが、欠席した児童やご家族にとって一番避けたいのはコロナ感染についての憶測やうわさ話、それに伴う差別でしょう。当事者の気持ちになって、うわさ話や差別をしないことを指導しました。



さらに、**自分の家族が感染者になり、長期に休まなければいけなくなった**と仮定し、休む期間が過ぎ、学校に久しぶりに登校することになったとき、どんなことを思うかを考えました。不安に思うことは何でしょうか。「コロナだったの？」など心無い言葉をかけられることが不安になるのではないでしょうか。

学校では、上記のような例があった場合、どこまでクラスの子ども達に伝えるかを保護者の方と相談し、保護者の方のご希望に沿えるようにしていきます。遠慮なくご相談ください。

一番避けたいのは、誹謗中傷を恐れるが故に、体調に不安があるのに、登校し、感染を広げてしまうことです。様々なご事情があるかと思いますが、ご理解ご協力をお願いします。

最後に、「だれがかかってもおかしくない」ということと、感染症対策をおろそかにしていいということは違うということを指導しました。先生に注意されるからソーシャルディスタンスをするのではなく、**自分自身で**感染リスクを下げる行動ができるように引き続き指導してまいります。